

平成20年産から出荷が始まる超稀少品種

販売予定

平成20年
8月中旬から

麗

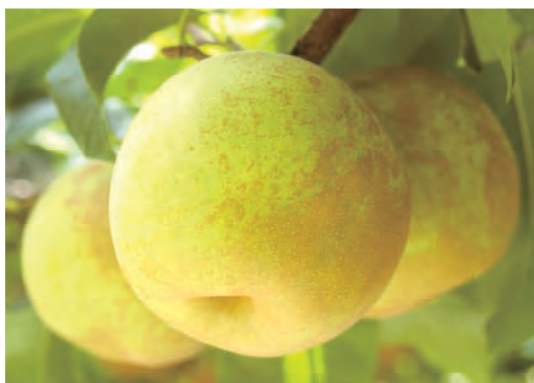
梨

平成15年に品種登録された『秋麗』は、幸水と筑水の交配により誕生した青ナシ。平成20年産から出荷が始まり、8月中旬から販売開始予定です。西洋ナシをイメージさせる果皮と、酸味が少ないため、甘みをより強く感じさせる果肉が特徴。「熊本県果樹研究会」の福岡清隆梨部部長が、品種への自信、市場での強みを紹介します。

「高級感あふれる独特の果皮と強い甘み」

ナシづくりを始めて35年が経ちますが、『秋麗』の甘さは経験したことはありません。8月下旬ごろに収穫したものは日本一おいしいナシだと感じていただける自信があります。『秋麗』は高糖系の青ナシで、平均糖度は14?15度。加えて果汁が多く果肉は軟らか、品のよい風味ある甘い香りを備えているのが特徴です。

洋なしのような独特の果皮



扁円形に整った果形以上に注目されているのは、印象的な果皮です。完熟すると黄味を増す緑色をベースに、私たち生産者が“サビ”と呼んでいる濃い褐色がまだらに入った姿は、高級感にあふれています。しかし、栽培が難しく、手間が掛かる品種です。熊本県では平成20年産から販売をスタートします。貴重な存在としても、全国からの注目を集める品種だと自信を持っています。